

農村開発に向けたラオスの薬用非木材林産物のデータベースの作成
Database preparation of Laotian medicinal non-timber forest products
for rural development

○木村健一郎*・ブンパサクサイ カンプーミ**・シンコン ザヤラス**

Kenichiro Kimura, Bounpasaxay Khampumi, Singkone Xayalath

1. はじめに

東南アジアの後発開発途上国であるラオスは、現在でも森林への依存が高い国の一つである。ラオスの農山村に生活する人々は、稲作を生業とする一方、森林からきのこやタケノコなど様々な非木材林産物（以下、NTFPs : Non-timber forest products）を採取して生活している。ラオス政府は農山村に暮らす地域住民の生計の改善に NTFPs が貢献できると考えている。2019年の森林分野におけるサブセクターワーキンググループ[†]では、これまであまり注目されてこなかった薬用植物、竹、カルダモン、蜂蜜が、持続的な収益を生み出す可能性が高いことを示唆した。医療水準の低いラオスでは、様々な薬用植物が利用されていることが知られている。薬用植物は新薬の開発の可能性があると高付加価値化が期待できるが、ラオス国内には NTFPs の基礎的な資料は1冊（NAFRI,2007）しかなく、そのうち薬用 NTFPs は17種類しか記載されていない。薬用 NTFPs は農村においても貴重な現金収入源となっているが、ラオ族やカム族の村では利用される薬用 NTFPs の種類は小数に限られている（木村ら,2014）。

国際農林水産業研究センターとラオス林業センターは、農山村の生計の改善を目的に、販売利用されている薬用 NTFPs について情報を収集しデータベース化した。そこで本報では、薬用 NTFPs に関するデータベース化について報告する。

2. 調査方法及びデータベース化

2.1 調査方法

薬用 NTFPs に関する調査では、首都ビエンチャンの Sao 市場の薬用植物の販売者に対して、インタビュー調査を行った。調査では、販売している薬用植物の名称、別名、利用部位、効果、使い方、価格、採集地を聞き取った。学名は、名称から Lao Flora (Inthakoun & Delang, 2008)で同定を行った。同定できない物については、採集地であるルアンパバーン県シェンゲン郡で薬用植物を採集している農山村住民と森林に入り、薬用植物を採集し、形態から同定を実施した。

2.2 データベース化

収集したデータは、ラオス語による薬用植物の名称、別名、学名、木本・草本、利用部位、効果、使い方、写真とし、Glide (typeguard 社)によりデータベース化した。

* 国立研究開発法人国際農林水産業研究センター(Japan International Research Center for Agricultural Sciences)

** ラオス林業研究センター(Forest Research Center of Lao PDR)

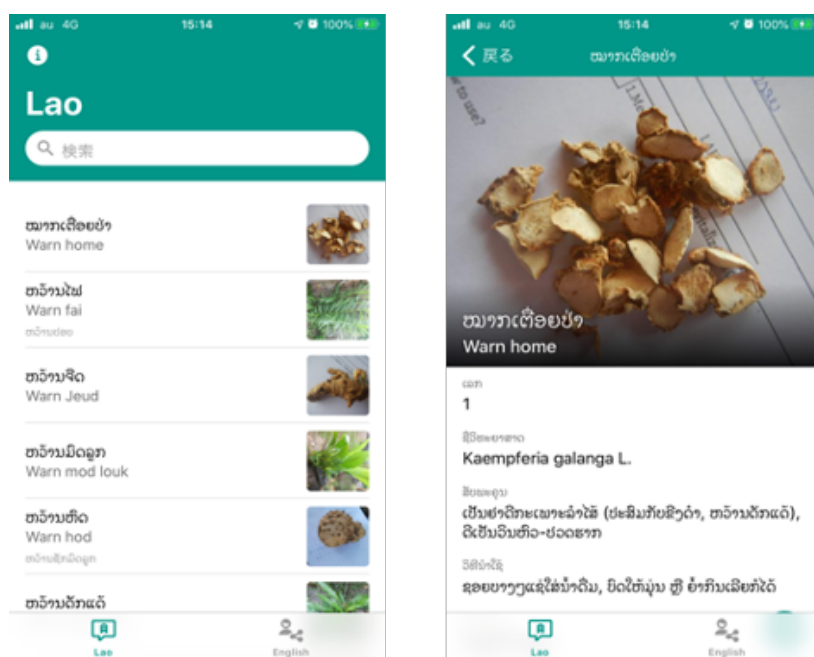
【キーワード】 薬用植物、非木材林産物 (NTFPs)、データベース、農村開発、森林保全

3. 結果と考察

インタビューは2018年3月16, 17, 18日の3日間で行った。3日間に出店された薬用植物の販売者は18名であり、全員モン族の女性であった。モン族は高地ラオ族に分類され、主に山岳地に暮らしており、薬用植物に詳しい民族とされる。今回の調査で、リスト化された薬用 NTFPs は 67 種類に上った。この内、38 種類の学名が特定できた。植物の同定には、花や実など特徴的な形態を用いて分類するため、開花や結実の時期に植物体が入手できない NTFPs については同定できなかった。同定された薬用 NTFPs のうち、草本類は 25 種、木本類は 13 種と草本植物が多かった。草本植物は収穫までが短期間であることから、森林内で栽培するアグロフォレストリー技術を開発することで、森林から経済価値を高め森林の保全利用が期待できる。

後発開発途上国に分類されるラオスだが、2015 年にはモバイル通信の人口カバー率が 90% を越え、低価格スマートホンが農山村でも普及しつつある。今後さらに IT 化が広がることを視野に、本データベースはスマートホン向けとした (図 1)。

ラオスは地域により植物の名称が異なることが多いことから、植物によっては別名なども可能な限り収録した。農山村では薬用 NTFPs の用途や用法を知らない者も多いことから、



薬用 NTFPs の伝統知としての効果及び利用方法を収録した。

本調査で同定できた薬用 NTFPs は全体の約 60% 程であるが、本データベースはコメント・チャット機能があることから、データベース参照者から情報提供が行われ、同定が進む可能性もある。また、コメント・チャット機能を使うことで、農家向けの栽培情報や取引価格の情報など収集や発信も期待できる。

図 1 開発した薬用 NTFPs データベース

写真左のリストをクリックすると、写真右の詳細が表示される。

†ラオス政府の諮問機関である国家円卓会議

木村健一郎ら (2014). 環境情報科学論文集 28, 55-58

NAFRI NUoL SNV.(2007) Non-Timber Forest Products in the Lao PDR: A Manual of 100 Commercial and Traditional Products.The National Agriculture and Forestry Research Institute. Vientiane, Laos

Inthakoun, L., & Delang, C. O. (2008) Lao flora: A checklist of plants found in Lao PDR with scientific and vernacular names. Morrisville, N.C: Lulu.

本研究は国際農研交付金プロジェクト及び JSPS 科研費 JP17K00706 の助成を受けた。